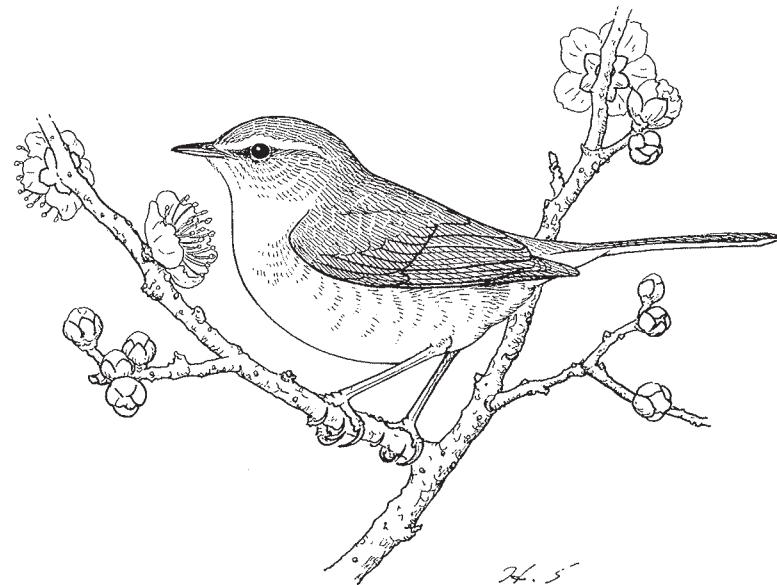


# ウグイス識別マニュアル



2000

## I はじめに

日本では野鳥の愛玩飼養は、限られた形でのみ許可されている。しかし、輸入された鳥類は制限なく飼養できることから、実際には多くの日本の野鳥が不法に捕獲され、輸入されたものとして公然と店頭で売買され、飼養されている。

この問題の解決のためには、輸入された鳥と国内産の鳥の識別が不可欠であり、この識別の方法が確立されれば、違法捕獲を防止する有効な対策となると考えられる。毎年、多くの輸入証明書が発行されているメジロやウグイス、ホオジロ等には日本固有亜種や準日本固有亜種が存在するものがあり、これらについては外国産の亜種と日本産の亜種との識別ができれば、輸入の真偽の確認が可能となる。外形態だけでは外国産と日本産の識別が困難な種についても、日本の国外に渡らない種の場合には、形態からだけでなく、さらに DNA 解析等の生化学的調査による比較検討から識別が可能となると考えられる。

この小冊子は、ウグイスについて外形態から日本産と外国産を識別するためのマニュアルである。財団法人 山階鳥類研究所は環境庁自然保護局野生生物課より委託を受け、平成7年度から多くの輸入証明書が毎年発行されている種を対象に日本産と外国産の鳥類の識別法に関する研究を実施してきたが、本書はその成果の一部である。本書がすでに発行された『メジロ識別マニュアル（山階鳥類研究所、1998）』と同様に活用され、ウグイスの不法飼育と密猟の防止に役立てられることを望む。

## II ウグイスの分布と亜種

ウグイス *Cettia diphone* は日本、サハリン、南千島、ウスリー南部から韓国、中国東部に繁殖分布し、北方の個体群は中国南部、台湾およびフィリピン北部を含む南方に渡り越冬する。また 1929 年以来ハワイ諸島に移入されて放鳥され、オアフ島をはじめ、近年ではカウアイ島、モロカイ島、ラナイ島、およびマウイ島で野生化している。

ウグイスは日本国内には4亜種、国外には3亜種または4亜種が分布し、繁殖する。すなわち、基亜種ハシナガウグイス *Cettia d. diphone* が小笠原群島と硫黄列島に留鳥として分布し、亜種ウグイス *C. d. cantans* が北海道、礼文島、本州、佐渡、四国、九州、対馬、壱岐、屋久島、種子島、伊豆諸島（大島、利島、新島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島）に、亜種リュウキュウウグイス *C. d. riukiuensis* がトカラ列島、奄美大島、与論島、沖縄本島、久米島、宮古島、石垣島、西表島、竹富島に、亜種ダイトウウグイス *C. d. restricta* が南大東島に分布する。これらの亜種のうちダイトウウグイスは 1920 年代には見られたが、絶滅している。本調査によれば、南部琉球諸島の宮古島、石垣島、竹富島、西表島、与那国島では本種は冬鳥である。

一方、亜種カラフトウグイス *C. d. sakhalinensis* がサハリン南部、南千島（国後島、択捉島、色丹島）に繁殖分布し、この亜種は北海道、本州、佐渡、九州で越冬する。濟州島には亜種ウグイス *C. d. cantans* が分布するが、同島のウグイスは、かつては亜種サイシュウウグイス

*C. d. takahashii* として別亜種とされていた。大陸には亜種チョウセンウグイス *C. d. borealis* がウスリーから韓国にかけて、亜種タイワンウグイス *C. d. canturians* が中国東部に繁殖分布し、亜種チョウセンウグイスは中国南東部、台湾、フィリピンのバタン島とルソン島で越冬し、亜種タイワンウグイスは中国南部からインドシナ、タイ北西部、台湾、フィリピン北部で越冬する。図1にウグイス各亜種の分布を示す。

このほかフィリピンのルソン島には亜種フィリピンウグイス *C. d. seebohmi* が留鳥として分布するが、この亜種は、フィリピンウグイス *Cettia seebohmi* として単型種とされることもある。ここでは、亜種フィリピンウグイス *C. d. seebohmi* を単型種の独立種として扱い、ウグイスの亜種には含めないことにする。フィリピンウグイス *Cettia seebohmi* は、ウグイスほど性的二型は顕著ではない。また、亜種タイワンウグイスも種として独立させ、タイワンウグイス *Cettia canturians* として扱われることもある。

日本産の亜種ウグイスの中国大陸からの記録は、亜種チョウセンウグイスの同定の誤りである。また、亜種リュウキュウウグイスが中国の揚子江河口近くの沙尾山島で、1907年4月と1910年12月および1911年3月に捕獲された記録があるが、この記録は、迷鳥とされている。

なお、亜種リュウキュウウグイス *C. d. riukiuensis* は、Kuroda (1925) が西表島を基産地として記載した亜種である。上述のように同島を含む南部琉球諸島では本種は冬鳥であり、また、亜種リュウキュウウグイスの原記載は亜種カラフトウグイスの冬羽にほぼ一致し、現在、トカラ列島、奄美大島、与論島、沖縄本島、久米島に留鳥として分布するウグイスとは異なっているが、ここでは便宜上、日本鳥学会(2000)に従い、この留鳥として分布するものを亜種リュウキュウウグイス *C. d. 'riukiuensis'* として扱う。

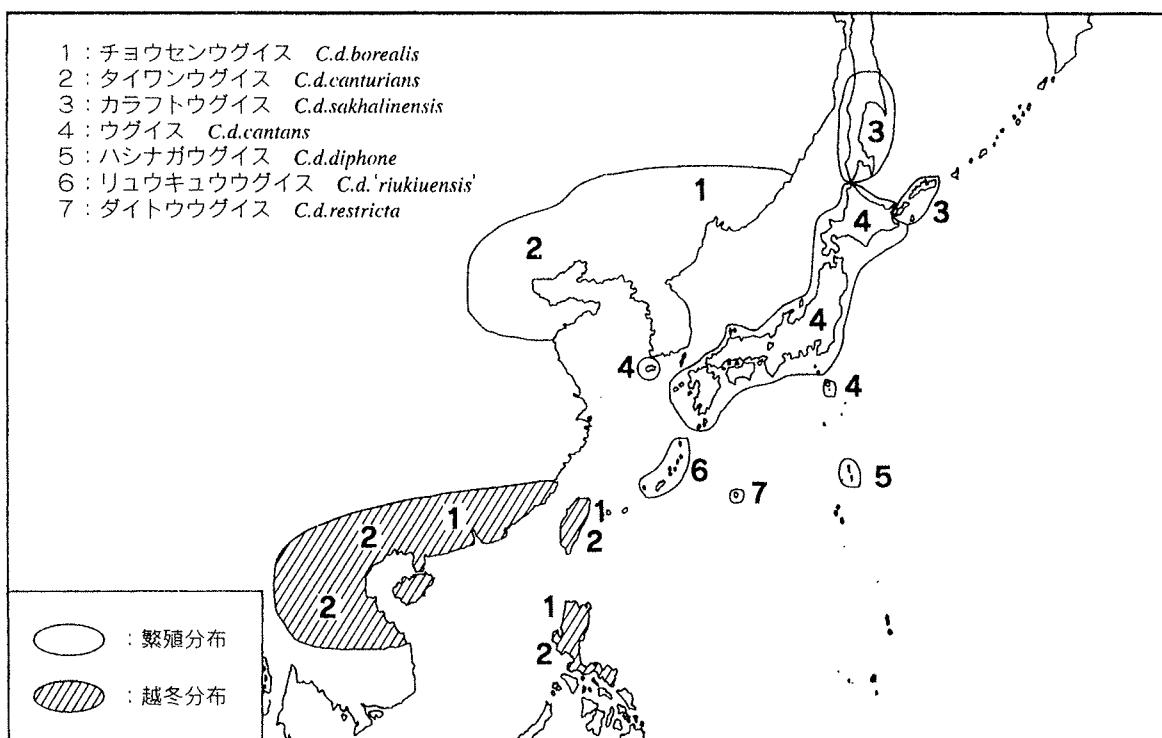


図1 ウグイス *Cettia diphone* の分布と亜種

### III 日本産と外国産のウグイスの識別の要点

ウグイスの全6亜種は、頭上の羽色から以下のように2グループに大別することができる。

- (1) 赤褐色：亜種チョウセンウグイス、亜種タイワンウグイス
- (2) 褐色を帯びたオリーブ色：亜種カラフトウグイス、亜種ウグイス  
亜種ハシナガウグイス、亜種リュウキュウウグイス

この2グループのうち、(1)は外国産、(2)は亜種カラフトウグイスを除き、日本産であり、亜種カラフトウグイスは日本だけで越冬する。(1)は(2)より大型で嘴が太く短い。

ウグイスは各亜種とも雌雄の羽色はほぼ同色で雌は雄より著しく小さい。また、各亜種とも新しい冬羽は、胸と腹が白黄色を帯びる。各亜種とも春には換羽しないが、羽毛の摩耗と退色により夏羽は冬羽より淡色となる。

### IV 外国産のウグイス各亜種の識別

外国産のウグイスのうち、亜種カラフトウグイスを除く2亜種は、頭上が赤褐色で大型であり、羽色の濃淡には個体変異が著しいが、以下の特徴から識別することができる。

#### 亜種タイワンウグイス *C. d. canturians*

亜種チョウセンウグイスに似るが、全体により赤味が強く、上面は額から頭上、上尾筒はほぼ赤褐色で、背、腰、雨覆はやや淡く、嘴は太く短い。本亜種の夏羽は亜種チョウセンウグイスの冬羽に似る。地鳴きはジユルッと聞こえ、他の亜種とは異なっている。さえずりは低い声で他の亜種とは著しく異なり、ケキヨッ、ケキヨッ・・・と「谷渡り」を発することはない。嘴の色は上嘴、下嘴とも亜種ウグイスよりやや淡い。嘴はウグイスの亜種の中で最も太く短い。

#### 亜種チョウセンウグイス *C. d. borealis*

亜種タイワンウグイスに似るが、全体により淡色で、背、腰はわずかに灰色を帯びる。夏羽の下面是白味が強く、脇と下尾筒は淡いバフ色である。地鳴きはジャッと鳴くことが多い。嘴の色は上嘴、下嘴とも亜種ウグイスより淡い。亜種タイワンウグイスよりやや嘴の先が細い。

#### 写真説明

- ① 亜種タイワンウグイス *C. d. canturians* 雄・成鳥 (1992年11月22日 香港)
- ② 亜種チョウセンウグイス *C. d. borealis* 雄・成鳥 (1999年7月7日 中国黒龍江省)
- ③ 亜種タイワンウグイス *C. d. canturians* 雄・成鳥 (1992年11月22日 香港)
- ④ 亜種チョウセンウグイス *C. d. borealis* 雄・成鳥 (1999年1月12日 台湾台中)

①



②



③



④



### 亜種カラフトウグイス *C. d. sakhalinensis*

亜種ウグイスに似るが、上面は灰緑色味が強く淡色で、下面もより淡色である。上面の羽色が、個体により灰色味の強いものと緑色の強いものがある。亜種ウグイスより嘴はわずかに太く長い。上嘴と足の色は、他の亜種より黒味が強い。亜種ウグイスとの識別は、冬羽では難しい。地鳴きとさえずりは、亜種ウグイスに似る。

## V 日本産ウグイス各亜種の識別

日本産のウグイス 4 亜種のうち、すでに絶滅した亜種ダイトウグイスを除く 3 亜種は以下の特徴で識別できる。亜種ダイトウグイスの原色図版は黒田（1933, 1980）にある。

### 亜種ウグイス *C. d. cantans*

亜種カラフトウグイスに似るが、上面、下面とも羽色はより褐色味があり、嘴と足の色もより褐色味が強い。個体によりオリーブ色味の強いものと褐色味の強いものがある。亜種サイシュウウグイスと分類されたことのある濟州島の個体群は、亜種ウグイスよりいっそう亜種カラフトウグイスに似て褐色味が少なく、上面、下面とも亜種カラフトウグイスより暗色である。

### 亜種ハシナガウグイス *C. d. diphone*

小型で嘴は細長く、露出嘴峰は頭長に近い長さである。他の亜種では翼長と尾長はほぼ同長であるが、亜種ハシナガウグイスでは、尾長が翼長より長い。羽色は上面がオリーブ色を帯びた灰褐色で、下面是白味が強い。嘴と足の色は他の日本産の亜種より淡色である。

### 亜種リュウキュウウグイス *C. d. 'riukiuensis'*

亜種ウグイスに似るが、上面、下面とも亜種ウグイスより褐色味が強く、額がやや赤褐色を帯びており、下面も亜種ウグイスより暗色である。翼長は亜種ウグイスよりやや小さく、嘴は亜種ウグイスよりやや長い。

### 写真説明

- ⑤ 亜種カラフトウグイス *C. d. sakhalinensis* 雄・成鳥 (1997年8月1日 サハリン)
- ⑥ 亜種ウグイス *C. d. cantans* 雄・第1回冬羽 (1993年12月15日 茨城県)
- ⑦ 亜種ウグイス *C. d. cantans* 雄・成鳥 (1996年3月3日 静岡県)
- ⑧ 亜種ハシナガウグイス *C. d. diphone* 雄・成鳥 (1993年7月10日 東京都小笠原村)
- ⑨ 亜種リュウキュウウグイス *C. d. 'riukiuensis'* 雌・成鳥 (1996年7月23日 鹿児島県中之島)
- ⑩ 亜種サイシュウウグイス *C. d. takahashii* = 亜種ウグイス *C. d. cantans* 雌・第1回冬羽  
(1997年11月2日 濟州島)

⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

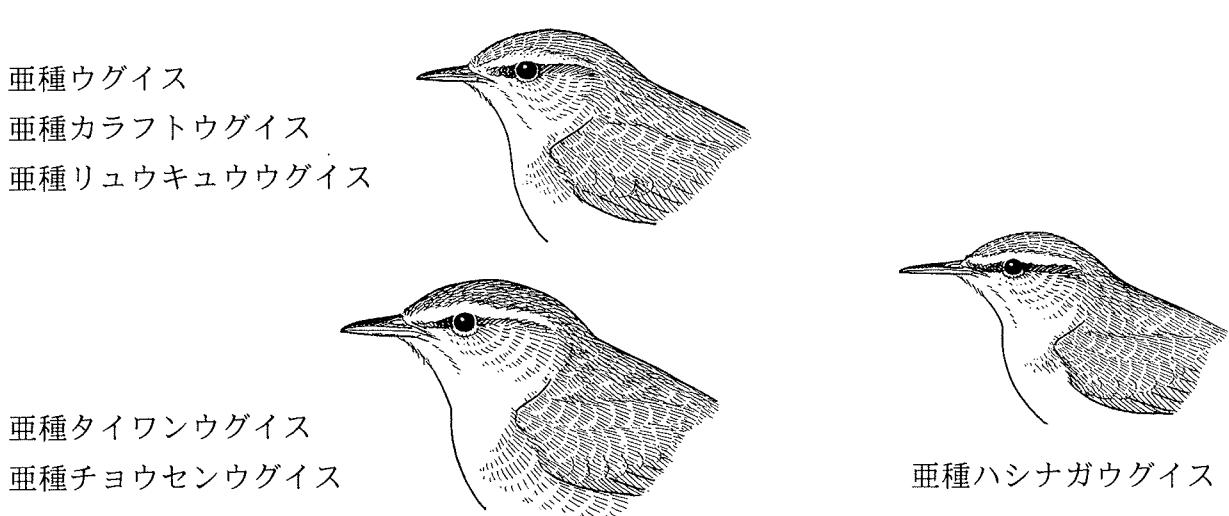


## VI 測定値による日本産と外国産のウグイスの識別

日本で繁殖するウグイス、亜種ウグイス *C. d. cantans*、亜種ハシナガウグイス *C. d. diphone*、亜種リュウキュウウグイス *C. d. 'riukiuensis'* の3亜種の分布は、周年、国内に限られている。また、外国産の亜種カラフトウグイス *C. d. sakhalinensis* は非繁殖期には日本からも記録があるが、国外からは繁殖地以外からの記録はない。亜種サイシュウウグイス *C. d. takahashii* と分類されたことのある濟州島のウグイスは現在、亜種ウグイスに含められており、現時点において測定値からもDNAからも識別することは不可能である。しかし、濟州島のウグイスは羽色がわずかに異なっており、褐色味が少なく、上面、下面とも亜種ウグイスおよび亜種カラフトウグイスより暗色なことから多くの個体で識別が可能である。

中国産のウグイス、亜種タイワンウグイスと亜種チョウセンウグイスは羽色から他の全亜種と識別できるが、羽色だけでなく、測定値からも他の全亜種との識別が可能である。両亜種の間の識別は、冬羽では羽色からも測定値からも識別は難しい。この両亜種は大型で翼長と尾長も大きいが、翼長と尾長は亜種ハシナガウグイスを除き、他の亜種と重複している。

しかし、中国産のウグイス両亜種は、嘴が短く太いので（図2），鼻孔前端の嘴高（図3）の測定値だけで他の全亜種と識別することがほぼ可能である。これは雄どうし、または雌どうしであれば、幼羽、成鳥、幼鳥のすべてについてほとんどの個体で可能である。雌雄を別にしない場合でも中国産のウグイス両亜種の雌で、亜種ハシナガウグイスを除く他の亜種の雄とわずかに重複するだけである。すなわち、鼻孔前端の嘴高の測定値が雄では3.4mm～5.0mm（平均4.0mm）、雌では3.2mm～4.3mm（平均3.7mm）であれば、亜種タイワンウグイスまたは亜種チョウセンウグイスである。他の亜種の鼻孔前端嘴高の最大値は、亜種ウグイスで、雄では3.5mm、雌では3.3mmである。



中国産の亜種タイワンウグイスと亜種チョウセンウグイスで嘴の形が太く短いことを示す

図2 ウグイスの頭部

## VII まとめ

### ウグイスの国内産亜種と外国産亜種の識別ポイント

#### 分布

国内産亜種：亜種ウグイス，亜種リュウキュウウグイス，亜種ハシナガウグイス

#### 外国産亜種

中国およびロシア産亜種：亜種タイワンウグイス，亜種チョウセンウグイス

サハリン州産亜種：亜種カラフトウグイス

(1) 頭上が赤褐色であるか？ オリーブ褐色であるか？ または灰褐色であるか？

赤褐色：亜種タイワンウグイス，亜種チョウセンウグイス

オリーブ褐色：亜種カラフトウグイス，亜種ウグイス，亜種リュウキュウウグイス

オリーブ色を帯びた灰褐色：亜種ハシナガウグイス

(2) 鼻孔前端の嘴高が 3.5 mm 以上であるか，または 3.5 mm 以下であるか？

3.5 mm 以上：亜種タイワンウグイス，亜種チョウセンウグイス

3.5 mm 以下：亜種カラフトウグイス，亜種ウグイス，亜種リュウキュウウグイス

亜種ハシナガウグイス

上記の 2 つの識別ポイントから総合的に判断することによって，亜種カラフトウグイスを除き，ウグイスを国内産の亜種か外国産の亜種かに識別することができる。

亜種カラフトウグイスの識別は夏羽では難しくないが，冬羽では難しい。亜種カラフトウグイスはサハリン南部と南千島で繁殖し，日本だけで越冬する。

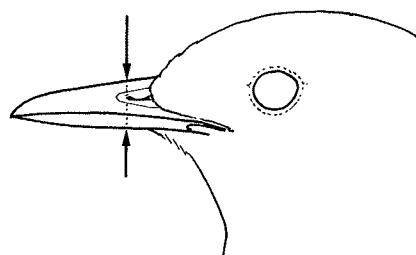


図 3 鼻孔前端の嘴高の測定法

## VIII 参考文献

- American Ornithologists' Union 1998. *Check-List of North American Birds*. 7th edition. Allen Press, Kansas.
- Brazil, M.A. 1991. *The Birds of Japan*. Christopher Helm, London.
- Dement'v, G.P. and Gladkov, N.A. (eds.) 1954. *Birds of the Soviet Union*. Vol. 6. Israel Program for Scientific Translations, Jerusalem (translated from Russian in 1968).
- De Schauensee, R.M. 1984. *The Birds of China*. Oxford University Press, Oxford.
- Dickinson, E.C., Kennedy, R.S. and Parkes, K.C. 1991. *The Birds of the Philippines*. B.O.U. Check-list No.12. British Ornithologists' Union, Tring.
- Kennedy, R. S., Gonzales, P.C. , Dickinson, E.C. , Miranda, H. C. , Jr. and Fisher, T.H. 2000. *A Guide to the Birds of the Philippines*. Oxford University Press, Oxford.
- King, B. F. and Dickinson, E. C. 1975. *A Field Guide to the Birds of South-East Asia*. Collins, London.
- Kuroda, Nagamichi 1925. *A Contribution to the Avifauna of Riu Kiu Islands and the Vicinity*. Published by the author, Tokyo.
- 黒田長禮 1933. 鳥類原色大図説 第 I 卷. 修教社書院, 東京.
- \_\_\_\_\_ 1980. 新版 鳥類原色大図説 第 I 卷. 講談社, 東京.
- La Touche, J. D. D. 1926. *A Handbook of the Eastern China*. Vol.1. Taylor and Francis, London.
- MacKinnon, J. and Phillipps, K. 2000. *A Field Guide to the Birds of China*. Oxford University Press, Oxford.
- 日本鳥学会（編）1974. 日本鳥類目録, 改訂第 5 版. 日本鳥学会, 學習研究社, 東京.
- \_\_\_\_\_ 2000. 日本鳥類目録, 改訂第 6 版. 日本鳥学会, 帯広市.
- Pratt, H. D. , Bruner, P.L. and Berrett, D. G. 1987. *The Birds of Hawaii and the Tropical Pacific*. Princeton University Press, New Jersey.
- Robson, C. 2000. *A Field Guide to the Birds of South-East Asia*. New Holland Publishers, London.
- Sibley, C. G. and Monroe, B. L., Jr. 1990. *Distribution and Taxonomy of Birds of the World*. Yale University Press. New Haven.
- 内田清之助 1915. 日本鳥類図説. 続編. 警醒社書店, 東京.
- Vaurie, C. 1959. *The Birds of the Palearctic Fauna, Passeriformes*. H. F. & G. Witherby Ltd., London.
- Watson, G.E. 1986. Family Sylviidae, Old World Warblers (Holarctic and Oriental). In Mayr, E. and Cottrell, G.W. (eds.) *Check-list of Birds of the World*. Vol. 11. Museum of Comparative Zoology, Cambridge, Massachusetts.
- 山階鳥類研究所 1997. 渡り鳥アトラス. 鳥類回収記録解析報告書, スズメ目編 1961 年-1995 年. 山階鳥類研究所, 我孫子市.
- 山階鳥類研究所 1998. 環境庁委託調査 メジロ識別マニュアル. 山階鳥類研究所, 我孫子市.
- 山階芳麿 1941. 日本の鳥類と其生態. 第 2 卷. 岩波書店, 東京.

---

**環境庁委託調査  
ウグイス識別マニュアル**

2000年11月30日

受託者 財団法人 山階鳥類研究所  
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115  
Tel:0471-82-1107 Fax:0471-82-4342

---